

オーストラリアの訪日旅行動向と本県への誘客可能性について

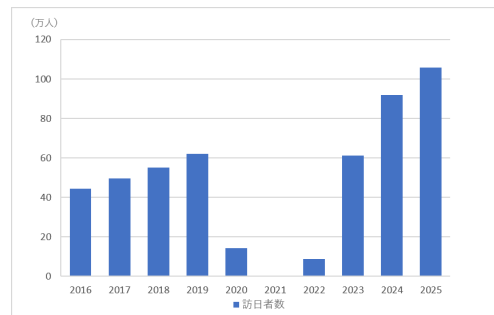
一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所研修生 桑野 翔

1. 訪日旅行の最新データ

2025年のオーストラリアからの訪日者数は、約105万8千人となり、初めて100万人を突破した。これは2024年の約92万人から約15%増加¹しており、過去最高となっている。

また、2026年1～3月においても前年同期比+9.9%¹と増加が継続しており、今後も訪日需要の拡大が期待される。

さらに、オーストラリアにおける海外旅行先としての日本の位置づけは大きく向上している。10年前には上位5位圏外であったが、2025年は3位²に位置しており、日本は主要旅行先として定着しつつある。



(図1) オーストラリアからの訪日者数の推移
(出典) 日本政府観光局 (JNTO) 公表資料¹を基に筆者作成

2. オーストラリアからの訪日旅行の特徴

オーストラリアからの訪日旅行者は、他国と比較して以下の特徴を有する。

第一に、消費単価が高く滞在期間が長い点が挙げられる。一人当たり訪日旅行平均支出額は約38万7千円と訪日旅行者全体平均(約20万5千円)の約1.9倍であり、平均宿泊日数は13.2日と同全体平均(7.1日)³を大きく上回る。

第二に、体験志向が強い傾向が顕著である。訪日旅行中の活動としては、歴史・文化体験、スポーツ観戦、スキー・スノーボード等の割合が全体平均より大幅に高く⁴、観光地巡りに加え、実際に参加・体験するコンテンツへの関心が高い。

¹ 日本政府観光局 (JNTO) 「2025年訪日外客数 (総数)」及び「2026年訪日外客数 (総数)」
(<https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/>)

² Australian Bureau of Statistics “Overseas arrivals and departures, Australia - 2024-25 financial year”
(<https://www.abs.gov.au/articles/overseas-arrivals-and-departures-australia-2024-25-financial-year>)

³ 観光庁「インバウンド消費動向調査2025年(令和7年)暦年【確報】」参考6及び参考7
(https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html)

⁴ 観光庁「インバウンド消費動向調査2025年(令和7年)暦年【確報】」参考3

第三に、旅行先の選択において、受入環境や情報を事前に確認する傾向がある。JNTO シドニー事務所によれば、タトゥー受入可能な温泉・宿泊施設等についての事前の問い合わせが多く、受入環境に関する情報の明確さが旅行先選択における判断材料の一つとなっている。

3. 本県への誘客の可能性

オーストラリアからの訪日需要は拡大している一方で、本県への訪問率は5.1%⁵と限定的である。しかしながら、当事務所が実施したアンケート⁶によると、訪日経験者のうち、「次回訪問したい地方」として九州は45.5%と高い支持を得ており、沖縄に次ぐ上位となっている。このことから、オーストラリア市場においては、九州は有力な受け皿となる可能性がある。

本県は、太宰府天満宮などの歴史・文化体験、屋台文化を含む食体験、スポーツ観戦環境、温泉宿泊施設、九州各県への優れたアクセス性といった観光資源を有している。これらの要素は、オーストラリア人が重視する「体験型観光」「長期滞在」「周遊型旅行」と整合しており、本県は九州観光のゲートウェイとしての機能を果たし得る。

加えて、本県は昨年度、福岡県観光ウェブサイト「Visit Fukuoka」内に温泉情報を集約した多言語特設サイト⁷を整備し、施設のタトゥー対応可否、支払方法、外国語対応の情報も掲載するなど、受入環境の情報整備も進展している。

6月には、九州観光機構が主催する九州観光商談会がシドニーで開催され本県も参加した。参加者からは、東京や大阪ほど混雑していない九州での旅行には、ゆったりと過ごしてリフレッシュすることを求める声や、福岡の屋台はオーストラリアにない文化であるため関心が高いとの声が聞かれた。また、篠栗町の南蔵院や飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸を紹介したところ、強い関心が示された。



(写真) 九州観光商談会の様子

訪日リピーターをターゲットとして、観光ウェブサイトや SNS などの既存媒体を活用し、九州での周遊型旅行を想定した長期滞在モデルの提示や県内の体験型観光資源に関する情報発信を強化するとともに、ハッシュタグキャンペーンなどを行い、本県への訪日者による SNS での情報発信を促す取組も有効だと考えられる。

引き続き、生の声や最新動向の収集を行い、本県の効果的な PR に努めたい。

⁵ 観光庁「インバウンド消費動向調査 2025 年（令和 7 年）暦年【確報】」表 6-1

⁶ 2025 年度にオーストラリア各地で開催された日本関連イベントで 1,146 人にアンケートを実施

⁷ <https://www.crossroadfukuoka.jp/feature/onsen>